

## 2017年度第1回 日本学連幹事会 資料

開催日時：2017年(平成29年)6月3日(土曜日) 14:30~21:30

開催会場：静岡県三島市 三島市民文化会館

議事録作成者：広報部長 坂野 翔哉 (東京理科大学)

### 議題

- 1.方針について
- 2.加盟校基準について 資料 1 p.2-3
- 3.インカレリレー特例措置について 資料 2 p.4
- 4.全日本大会について 資料 3 p.5-7
- 5.秋インカレに関するお知らせ
- 6.スキーOのユニバーシアードについて/JOAの現状と今後の事業方針について
- 7.地図会計について 資料 4 p.8-10
- 8.インカレのペナントについて
- 9.インカレスプリント会計について 資料 5 p.11-12
- 10.事業計画について
- 11.千葉大学涉外問題について
- 12.普及新歓活動について
- 13.技術委員会の今後について
- 14.メーリスについて
- 15.HPについて
- 16.後援大会について
- 17.学連発足35周年に向けて
- 18.理事会報告
- 19.各部局活動報告
- 20.地区学連活動報告
- 21.次回幹事会について

### 【概要】

昨年度、何度か議題に挙げて議論してきた。もともとは、地区学連により加盟校となる基準の人数が異なっていること、またそれにより総会などで大学ごとの1票の差があること、の2点を是正することが議題であった。しかし議論の中で、この問題が、各校1票であることに問題はなく、むしろ学連がどのように加盟校を位置付け、学連はどのような組織であるか、という学連の根幹に関わる、と言うことが浮き彫りになった。「加盟校を認めるのは日本学連側であり、加盟校側のメリット・デメリットを考えるだけではなく、日本学連にとっての加盟校の意義を明確にするべきである」という観点を考えて、改めて日本学連にとっての加盟校というものの意義を考えてきた。

### 【加盟校視点で見た加盟校形態について】

加盟校になる、ということは「総会の出席義務」「総会での投票権」「加盟料の値上げ」などが発生する(総会への出席を義務ととらえるか、権利ととらえるかは論が分かれている)。ただし、準加盟校であったとしても、総会に出席し、発言することはできる。人数の少ない大学にとっては、必ずしも全員がオリエンテーリングにどっぷりと浸かっているわけではないから、一部の人に負担が偏り過ぎてしまうこともあるが、中にはあまり来ない人が涉外になることで、オリエンテーリングと接する機会が増えた、という場合もある。ここについては細かい議論をしても仕方がなく、「結局団体ごとに性質が異なるため、人数という基準はあまり意味がない」と考えられる。

そのように考えると、加盟校になる・ならないについては、人数によって勝手に変動するよりも、自分たちの意思で加盟校に昇進できるようにした方がいい。そのため、人数基準は緩めに設定しておき、そのうえで各地区学連総会での承認制を採用することで、加盟校になりたいと判断した大学は、そちらに申請をして承認を得る、という形にする。このようにすれば、まだ課題はたくさんあるものの、各校の実態に合わせた柔軟な対応ができるようになるかと考えられる。

### 【日本学連視点で見た加盟校形態について】

日本学連は日本の学生オリエンテーリングを統括する唯一の存在である。その構成員は「組織の最高意思決定機関(総会)で投票権をもつもの」、つまり加盟校である。個人の加盟登録というのは組織論的には副次的なものであって、日本学連の各種事務処理等をするために、各加盟校の構成員を届け出ている、これが個人の加盟登録ということになる。

申請してきた大学を加盟校として認める、ということは、日本学連が申請者を「大学を代表に値するクラブである・総会の議決権を与えてよい」ということを認めたことと同義である。逆に言えば、このような正式な加盟ができない大学に対してのみ、準加盟を認める、ということになる。準加盟校は総会での投票権を持たないため、意思決定に関与することができない(極端なことを言えば、準加盟校にとって不利な決定をしたとしても、抗うすべを持たない)。

### ○日本学連からみた加盟校との関係

- ・究極的には何か起きた時の責任は日本学連が負うのだから、加盟校という形で管理をしやすくしている

・日本学連は学生を代表する機関であるということから、大学を加盟校として認める、ということは、「対象校が加盟校としてふさわしい」とみなしたといえる

・学生を統括する立場であるため、学生のコミュニティというフレームを維持するために、加盟校という形をとり、また渉外を総会に出してもらうことで、その運営に協力してもらう

・学連に加盟することで得られる加盟校にとっての最も大きい利益は「インカレに出られること」

#### ○準加盟という形態の存在意義

・加盟校として認めるには十分に自治的機能を有しているとは言えないため、仮登録的な意味合いとして存在している

⇒大きく分けて、大学の加盟登録は「日本学連の運営に関与できる権利(総会での投票権＝ルールを作る権利)」と「インカレリレーへの出場」という意義があると考えられる

#### 【今後決めること】

以上の議論を踏まえて、以下のことを決めるべきではないだろうか。

- ・3人以上の学連加盟員＋地区学連で承認された大学が加盟校である。
- ・加盟校は、インカレリレー選手権クラスに出場する資格を得る
- ・加盟校は、日本学連総会および、地区学連総会の参加義務があり、日本学連の一員としての行動を求められる(代理や委任状も可)
- ・日本学連および地区学連は、人数の基準を満たす大学の加盟登録を妨げるべきではないが、地区学連の承認をもって加盟校とする。
- ・加盟校が総会に参加しないことが続く場合は、準加盟校に降格することがある。

→ほかに決めないといけないことや、異論はないだろうか？

第2回幹事会で、文言まで詰めて、秋インカレの総会で決議をとりたい。

【今までの幹事会で決めた方針】

・特例措置は必要か？

特例措置の本来の目的である、「加盟人数が少なく、選手が集まらないために選手権の部に出場できない大学に対して、学生オリエンテERING界の最高水準の競技レベルを経験する機会を提供する」を鑑みると、必要であると考えられる

・判断基準

上記の意義から見るとなるべく多くの大学が利用できるようになって問題はない

しかし、「大学1位を決める」選手権リレーという観点から見ると、エントリーが3人以上の大学にも認めるのは、利用できないとした方がいい

仮に3人のうちに実力が足りない選手がいるのだとしたら、そちらに合わせてURクラスに出場すべきであるし、選手権に出たいのであれば1年をかけてチーム作りをするべきである

・判断主体

日本学連が主体とはなるが、判断基準を明確にしたため、基本は実行委員会の方にその基準にのっとって判断していただき、グレーゾーンについては幹事会に決定をゆだねていただくようにしたい

・特別表彰

選手権を走れるだけでも十分に意味があったといえるため、基本的には表彰は必要ないという方針で考える

【今回の幹事会で決めること】

・上記の内容の再確認をしたい。

そのうえで、他に論点がないか改めて確認できたら、基準として文章化したいと思います。

## 1. 全日本大会についての議論の確認

### ○前提

地図を使えるようにしてくれている地域クラブ、地域協会などが存在してくれているから、インカレが開催できる。結局、地元とのやり取りが一番大事。全日本大会がなくなると、JOA および各県協会がぐらつくと、こういった根回しが不可能になる。必然的にインカレもできなくなってしまう

### ○決定事項

#### 【全日本大会とインカレの相互交流について】

- ・インカレ（ロング）M/WE クラス上位 6 位以内の選手に、当該年度全日本大会の W/M21E 権を付与する。
- ・インカレロング ME クラス 15 位、WE クラス 10 位以内の選手に当該年度および翌年度公認大会（全日本大会を除く）の M/W21E 権を付与する。
- ・インカレ（ミドル）M/WE クラス上位 6 位以内の選手に、当該年度および翌年度公認大会（全日本大会を除く）の M/W21E 権を付与する。

#### 【2018年度まで適用する内容】

- ・全日本 21E 権保有者は、インカレの地区学連セレクションを免除し、全日本 21E クラスを心置きなく走れるようにする。これは、2017 年度の全日本大会には適用されない。
- ・セレクション免除者は現状与えられているインカレ選手権の 60 : 30 とは別枠での出走とする。ただし、選手権の価値や運営負担の観点から、免除者の数が 5 人を超えるようなことになればこの改革案の見直しを行う。
- ・全日本大会において地区学連セレクションを併設して行うことができる。日本学連幹事会が全日本大会の開催地から判断して地区学連を指定し、その地区学連総会にて承認がとられた場合、セレクションを併設する。
- ・全日本大会の開催時期はプロデューサーが設定する。ただし、学生側から時期の希望をとることができる。
- ・全日本大会の中心的な運営はプロデューサーが行うが、運営手伝いとして当該地区学連 OB に招集をかけることは妨げない。
- ・テレインコントロールは 1 年以上前から行う。
- ・セレクションは、専用のセレクションクラスを設ける。出走人数が多くなる場合は地区ごとの分割を行う。
- ・セレクションを行う地区学連の全日本 20E(ジュニア選手権)クラスに参加する資格を持つ者は、セレクションと全日本 20E クラスのいずれかを選択して出走する。
- ・参加費は現状の学生地区学連セレクション並みにとどめる。

## 2. 今後検討すべき内容

### ・規約化について

基本的には毎回併催するわけではないので、規約化をする必要はない。申し合わせのような形で、どこかに文書を残しておきたい。今後の全日本大会の展望を見守りつつ、その内容を今年度中には決めたい。そのため、申し合わせの内容を詰めていきたい。

### ・申し合わせの内容

JOA との取り決め事と学連内部での取り決め事の 2 種類ある。

## ○JOA との取り決め事

昨年度の議論から以下のことは決めておきたい。

- ・全日本大会において地区学連セレクションを併設して行うことができる。日本学連幹事会が全日本大会の開催地から判断して地区学連を指定し、その地区学連総会にて承認がとられた場合、セレクションを併設する。
- ・全日本大会の開催時期はプロデューサーが設定する。ただし、学生側から時期の希望をとることができる。
- ・全日本大会の中心的な運営はプロデューサーが行うが、運営手伝いとして当該地区学連 OB に招集をかけることは妨げない。
- ・トレインコントロールは 1 年以上前から行う。
- ・セレクションは、専用のセレクションクラスを設ける。出走人数が多くなる場合は地区ごとの分割を行う。
- ・セレクションを行う地区学連の全日本 20E(ジュニア選手権)クラスに参加する資格を持つ者は、セレクションと全日本 20E クラスのいずれかを選択して出走する。
- ・参加費は現状の学生地区学連セレクション並みにとどめる。

## 検討事項

- ・決定時期について

セレクションを併催するかどうかの決定は、基本的には地区学連の管轄になる。そのため、地区学連がセレクションを併催したい(例えば、北東が東大会にセレの運営を委託するような?)とお願いする場合と、全日本大会のプロデューサー側が誘致したいと呼びかける場合の 2 パターンがあるだろう。

それぞれについて、いつ頃実行委員会(プロデューサー?)に対してセレクションを併設してほしいとお願いするかは、決めておくべきである。可能であれば申し合わせの中に文章として残しておくべきだと思われる。

- ・運営形態について

今回の発端に、「学生および学生 OB が全日本大会に参加しない」という問題点が指摘されたことは言うまでもない。その一環として、開催地区の学連 OB を当日運営役員(セレクションを併設するなら対象地区学連にそのコースなどを確認する担当)を出してほしい、と山川さんから話が合った。今後はこれをどうするかは、要検討事項であると考えられる。

→ほかに論点はないだろうか?

## ○学連内部での取り決め事

### 検討事項

- ・全日本 21E 権保有者だけで地区学連枠が埋まる
- ・全日本 21E クラスに出走することを要件とするかどうか

2018 年度まではひとまず別枠という方針で考えているが、今後必ず毎回の全日本大会でセレクションが開催されるわけではない、となると別枠よりも各地区学連枠を先取りする方が都合いい。というのも、併設する年としない年で、インカレの出走人数が異なってしまうのは不都合がある、と考えられるからである。また、同時に全日本 21E 権を持っていることがセレクション免除の要件ではなく、実際に全日本 21E クラスに出走すること

を要件とするべきである(偶然そのタイミングで持っていただけで免除される、というのは不公平)。

ただし、全日本 21E 権保有者が地区学連枠を超えた場合には別枠処理にする、など例外的な状況も考えられる。また、免除者が一定数いることで、そもそも地区学連セレクションを開く必要がなくなってしまうこともあるだろう。

→ほかに論点はないか？また、検討事項をどうするのがいいか？

### 3. 全日本大会に参加してもらうにはどうすればいいのか？

暫くの間、学生(やOBOGなり立て)に全日本大会の魅力をPRし続ける必要があると同時に、学生側から全日本大会に要求・提案を行っていききたい。

→要求したいこと・提案したいことはないか？

→小泉前幹事長がo-forumで全日本大会についてのアンケートを行っていて、それも参考にする。

### 4. 地域クラブと交流する

地域クラブは、若手不足にあるようだ。地域クラブは、OBOGがオリエンテーリングを続ける基盤となると思われる。また、トレイン管理や地元渉外を行うためにも、存続が必要である。全日本大会を立て直すとともに、地域クラブも同時に勢いづくとうい。そのため、学生と地域クラブともしっかりと交流の場があった方がよいのではないだろうか。その方策を考えることは学連にとっても意義のあることだと思う。

#### ・全日本リレーをもっと活用する

現状、学生が社会人の皆様と交流する機会は、ほとんど全日本リレーしかありません。これを除くと、大会会場でもそれぞれの団体で固まってしまうため、交流は持てずじまいです。大会会場などでブースをおこうという話もあがっていますが、結局そんなブースがあっても、わざわざ立ち寄る人はなにもしなくても、いつか地域クラブにはいると思います。

→全日本大会の参加とともに、全日本リレーにも参加を呼び掛けてみるのはどうか

→何かほかに方法はないだろうか

2016年度日本学連販売地図売上最終報告年度末まで 2017年3月総会・幹事会報告・2017年6月幹事会追加報告

		報告者: 指定管理業者: YMOE社 山川	
	ここ数年の年毎の推移	IC開催地	
	2009年度	前高原・日光例幣使街道	2328枚
	2010年度	奈良嶽山・柵の湖	2767枚
	2011年度	松本アルプス高原・希望が丘	3542枚
	2012年度	足柄→富士こどもの国・日光所野	8521枚
	2013年度	富士奇石・矢板日新	11794枚
	2014年度	福井・作手高原	7986枚
	<b>最大値やや更新!</b>	2015年度	長野富士見・塩谷熊ノ木
		2016年度	天平・矢板前高原・マキノ
			<b>9759枚</b>

実施日	テレビ名	団体名	YMOE 伝票番号	枚数	備考	備考2
4月16日	日光和泉	筑波大学	栃木2016-33	26		
4月18日	日光例幣使街道	KOLC	栃木2016-34	102		
4月19日	日光例幣使街道	早稲田大学	栃木2016-35	110		
5月5日	柵の湖	名古屋大学	YMOE2016-10	121		
5月8日	日光例幣使街道	新潟大学	栃木2016-36	141		
5月14日	日光例幣使街道	筑波大学	栃木2016-37	22		
5月15日	塩谷田所	筑波大学	栃木2016-37	31		
5月14日	毘沙門山	早稲田大学	栃木2016-38	98		
5月15日	日光所野	早稲田大学	栃木2016-38	150		
5月21日	日光和泉	KOLC	栃木2016-39	45		
5月21日	日光口	KOLC	栃木2016-39	35	印刷費200	
5月28日	矢板日新	筑波大学	栃木2016-40	47		
6月11日	日光例幣使街道	茨城県協会	栃木2016-41	28		
6月12日	日光所野	茨城県協会	栃木2016-41	111		
6月19日	日光所野	東京工業大学	栃木2016-42	63		
6月25日	日光和泉	ユニバ合宿	栃木2016-43	60	単価0	
7月9日~10日	柵の湖	京都大他関西学連	YMOE2016-21	235		
7月17日	日光和泉	茨城大学	栃木2016-44	38		
7月18日	日光例幣使街道	茨城大学	栃木2016-44	58		
7月17日	日光和泉	OS会	栃木2016-45	110		
8月26日	日光和泉	千葉大	栃木2016-46	49		
8月25日	塩谷熊ノ木	千葉大	栃木2016-46	39		
8月27日	矢板山苗代	千葉大	栃木2016-46	67		
9月2日	日光和泉	ときわ練習会	栃木2016-47	102		
9月2日	矢板山苗代	千葉大	栃木2016-48	41		
9月13日	日光例幣使街道	関東学連新人戦	栃木2016-49	209		
9月25日	不動の滝(北)	東京工業大学	栃木2016-50	135		
9月30日	番匠峰古墳	東京農工大学	栃木2016-51	33		
10月1日	矢板幸岡	東京農工大学	栃木2016-51	33		
10月2日	日光例幣使街道	東京農工大学	栃木2016-51	23		
10月2日	毘沙門山	KOLC	栃木2016-52	66		
10月8日	番匠峰古墳	京都大学	栃木2016-53	89		
10月8日	矢板運動公園	京都大学	栃木2016-53	47	単価150	
10月9日	矢板山苗代	京都大学	栃木2016-53	117		
10月10日	矢板幸岡	京都大学	栃木2016-53	135		
10月15日	矢板山苗代	岩手大学	栃木2016-54	53		
10月15日	塩谷熊ノ木	新潟大学	栃木2016-55	34		
10月15日	塩谷熊ノ木	東京大学	栃木2016-56	254		
10月16日	塩谷田所	KOLC	栃木2016-57	260		
10月29日	日光口+例幣使街道	東北大学	栃木2016-58	32	単価400	
10月30日	矢板山苗代	東北大学	栃木2016-58	54		
10月29日	日光例幣使街道	東北大学	栃木2016-58	123		
10月29日	矢板幸岡	東京大学	栃木2016-59	71		
10月29日	矢板山苗代	筑波大学	栃木2016-60	49		
10月30日	塩谷熊ノ木	筑波大学	栃木2016-60	39		
10月28日	塩谷熊ノ木	横浜国立大学	栃木2016-61	87		
11月7日	矢板幸岡	横浜国立大学	栃木2016-62	107		
11月7日	矢板山苗代	早稲田大学	栃木2016-63	90		
11月13日	塩谷熊ノ木	筑波大学	栃木2016-64	22		
11月28日	日光和泉	KOLC	栃木2016-65	192		
12月2日	毘沙門山	東京工業大学	栃木2016-66	91		
12月6日	毘沙門山	東京大学	栃木2016-67	185		
12月11日	不動の滝(北)	早稲田大学	栃木2016-68	169		
12月7日	不動の滝(北)	KOLC	栃木2016-69	125		
12月17日	日光所野	ミドルセレ	栃木2016-70	928		
12月24日	矢板塩田	早稲田大学	栃木2016-71	67		
12月25日	日光例幣使街道	早稲田大学	栃木2016-71	129		
12月26日	日光所野	早稲田大学	栃木2016-71	94		
12月28日	日光所野	KOLC	栃木2016-72	92		
12月29日	毘沙門山	KOLC	栃木2016-72	88		
12月30日	日光例幣使街道	KOLC	栃木2016-72	87		12月までで6338枚
1月13日	矢板塩田	新潟大学	栃木2017-1	85		
1月14日~15日	日光所野	新潟大学	栃木2017-1	228		

1月14日	矢板塩田	筑波大学	栃木2017-2	49		
1月21日	毘沙門山	金沢大学	栃木2017-3	48		
1月22日	日光例幣使街道	金沢大学	栃木2017-3	64		
2月4日	塩谷熊ノ木	山川Dream		228	単価0	学連合宿に代わるイベント
2月5日	塩谷熊ノ木	山リハ		327	単価0	
2月11日	毘沙門山	千葉大学	栃木2017-4	37		
2月12日	矢板幸岡	東京工業大学	栃木2017-5	169		
2月15日～16日	日光和泉	東京農工大学	栃木2017-6	60		
2月18日	矢板塩田	岩手大・岩手県立大学	栃木2017-7	61		
2月19日	日光和泉	岩手大・岩手県立大学	栃木2017-7	91		
2月24日	不動の滝(北)	東京大学	栃木2017-8	193		
2月25日	矢板塩田	東京大学	栃木2017-8	133		
2月26日	日光所野	東京大学	栃木2017-8	152		
2月25日	日光所野	東北大学	栃木2017-9	129		
2月26日	不動の滝(北)	東北大学	栃木2017-9	213		
2月25日	塩谷熊ノ木	JOA強化委員会	栃木2017-10	20		
2月26日	塩谷田所	山川Dream		72	単価0	
3月5日	不動の滝(北)	新潟大学	栃木2017-11	57		
3月4・6日	日光所野	新潟大学	栃木2017-11	88		
3月3日	不動の滝(北)	千葉大学	栃木2017-12	23		
3月4日	日光所野	千葉大学	千葉大学	31		
3月5日	矢板塩田	千葉大学	千葉大学	34		
3月8日	番匠峰古墳	茨城大学	栃木2017-13	32		
3月11日	番匠峰古墳	プレ全日本		98	単価0	
3月11日～12日	矢板運動公園	プレ全日本		140	単価0	
3月12日	矢板片俣	プレ全日本		310	単価0	
3月22日	日光例幣使街道	麻生中学高校	栃木2017-14	65		
3月23日	日光和泉	麻生中学高校	栃木2017-14	80		
3月24日	日光所野	麻生中学高校	栃木2017-14	64		
3月27日	塩谷熊ノ木	筑波大学	栃木2017-15	40	版權のみ使用	
	2016年度終了					
			最終報告	9759	枚	
	【初出企画使用分】	本年は新機軸事業無し				
	初出分			0		
	販売分			0		
				0	枚	
			初出分	0		
			販売対象分	0		
		指定管理業者による学連地図の供給総数		9759	枚	
		学連内部使用分		60	枚	学連合宿開催無、ユニバ合宿
		1月幹事会で認められた減免分		1175	枚	
		指定管理業者への印刷代支払いを除いた学連の収入額として単価				
		200円のもの地図売上		8445	枚	¥ 1,689,000
		150円のもの地図売上		47	枚	¥ 7,050
		400円(合体版)売上		32	枚	¥ 12,800
		初出地図分(学連分550円)の地図売上		0	枚	¥ -
		学連地図の総使用枚数(春インカレの現場を除く)		9759	枚	
		2015年度日本学連地図売上総額(確定値)		a		¥ 1,708,850
		<参考>				
		2015年度YMOE代行分の地図売上(新機軸事業/塩谷田所)				¥ 2,600,600
		2014年度YMOE代行分の地図売上(新機軸事業/矢板山苗代)				¥ 1,693,500
		2013年度YMOE代行分の地図売上(新機軸事業/毘沙門山と矢板山田)				¥ 2,575,800
		2013年度と2015年度は最終的な総額ではほぼ同じとなっているが、2013年度は新機軸事業が2件あること、供給側の実情として、皆よく練習するようになり、複数メニュー地図(その拡大解釈の半サイズ地図)を多用するようになったことも上げられる。地図供給量としては2013年度よりさらに増えた、というのが実情				
		【説明】実績の良い(それは=栃木でのインカレ開催)の2013年と2015年度で評価の視点を言えば、新機軸事業の数の違いによる初出分の違い、結局数値上は、2015年度の方が2013年度より、日光矢板で練習実績が多かったということになる。				
		【2016年度説明】春インカレが栃木の年とそうでない年としては、1～3月の追い込み時期の使用実績が違う。しかし今年は秋インカレが栃木であり、また関東も北東もロングセレを栃木で行わなかった。2014年度と比較しての実績が良いのは、それだけさらに練習をするようになったこと、KOLC10回練習会やOLT杯、OC公開練習会、ときわ会公開練習会のように、地図と渉外環境を整えることにより、外部参加可能な大会スタイルの練習イベント開催へのハードルを下げることに、この事業が寄与しているためと思われる。				

【上記テレイン別使用枚数統計】日光矢板地区で17テレインになりました。さらに新機軸第5弾でもう1テレイン加わります。

			昨年度実績		
矢板日新	47	全日本後は利用可	2398		
日光例幣使街道	1193		1513		
番匠峰古墳	252		1327		
日光和泉・日光口	920		1244		
塩谷田所	363		1232		
矢板山苗代	471		972		
不動の滝(南)・日光愛宕山	0	クローズ中	940		
矢板幸岡	515		798		
矢板山田	0	全日本後もクローズします	714		
日光所野	2130		529		
毘沙門山	613		359		
権の湖	356	クローズ中	289		
塩谷熊ノ木	1090		151		
不動の滝(北)	915		127		
矢板運動公園	187	JSSOM	44		
矢板塩田	429	秋インカレ後の利用			
矢板片俣	429	リザーブ			
矢板長井	429	リザーブ			
前高原	0	クローズ			
倉掛湧水池(矢板ー白いテレイン!!)		新規作成予定			

精算作業		【地図会計関連のYMOE社との会計やりとり2016年度分】				
他日光・矢板テレイン維持改訂作業	関東ミドルセレ OLT杯他	2015年6月担当理事に提出	別途報告	¥ 150,000		
	塩田での新大合宿でのトラブル処理は後述渉外費で対応	塩田での一部修正作業はインカレの残業で対応	今度からは出来る限り事前に出すように改めます。突発対応はなるべく早くで	¥ -		
新機軸事業無し				¥ -		
インカレスプリント幹事会決済による補助金				¥ 200,000		
事務局関係費用(渉外・資材管理含)		前年までの渉外費山川支出分はなくなりました		¥ 1,200,000	b	
2016年分YMOE社より日本学連会計に納金する最終精算額					a-b	¥ 158,850

【概要】

昨年度の幹事会にて、インカレスプリントを併設して行うには、現状は赤字を避けることはできないということを確認した。500~1500円程度の値上げは許容されうるのではないかと考えられる。しかし、値上げだけで十分赤字を賄うことはできない。

そこで、そもそもの会計制度を変える必要と、学生にスプリントの競技の魅力を浸透させ、参加者を増やす必要があると考えられる。

会計制度については、学生は運営体系については不明なことが多く、実行委員会に意見をうかがっているので、確認する。幹事会では、学生にインカレスプリントに参加してもらうための方策について考えていきたい。

○スプリントそのものの魅力の浸透

→何か方法はないだろうか？

○インカレスプリントのルール等について

- ・インカレ選手権人数を増やす

単純に人数が増えれば、参加費は増加するし、選手権クラスに参加する学生の在籍する参加者数の増加も見込まれる。また、フォレスト競技よりも比較的運営負担の増加が少なく済む。

→インカレ選手権の人数は多くするべきではない、というのが近年の学連幹事会の意見である(ミドル選手権クラス女子等)

→その一方、スプリントは「見せる」競技でもある。増やすことはオリエンテーリング普及にも一役買うのではないだろうか？

- ・クラス設定を変更する

併設クラスをロングなどと同じように何パターンか設定し、同時出走。参加してもらいやすくする、等

- ・モデルイベント

ロングのモデルイベントは相当の収入が見込まれるため、スプリント会場とモデルイベントが近い場合は、併設クラスを逆になくし、モデルイベントに参加してもらう方が全体での収支はとれるのではないだろうか？

- ・スプリントの単独開催は本当にできないのか？

スプリントにおいても渉外が重要であることに間違いない。ロングと比較的近い場所での開催にすると、渉外の都合上同じ週の土日に開催できない場合も今後考えられるのではないだろうか。現状では、インカレスプリントだけで開催すると、参加者数や採算に問題を抱え、不可能かもしれない。しかし、魅力が浸透し、価値が確立され、インカレスプリントの単独開催も可能、まで理解が進むことが理想的ではないだろうか。

<山川付記>参加費の推移

2013年（富士・奇石）選手権 4600円一般 3600円  $\times$  3000円 SIカード込み

2014年 春（矢板）8500円  $\times$  8000円選手権割増+1500円/1試合、マイカード+500円

2015年

秋（福井）ロング選手権 4500円一般 3500円  $\times$  4000円、eカード+200円、モディベ+500円

スプリント試行選手権 2500円一般 1500円、eカード+200円

2015年春（愛知作手）前回と同じ

秋（富士見）今PDFが開けない、多分2016と同じ、モディベ1000円

2016年春（塩谷熊ノ木）前回と同じ

秋（天平・矢板）スプリント選手権 3000円一般 2000円 SI レンタル+100円、モディベ無し

ロング選手権 4500円一般 3500円  $\times$  4000円（弁当代抜）eカードレンタル+300円、